

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋建築環境配慮制度運用マニュアル2014 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	天野商事様プロジェクト 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市中区丸の内三丁目1308、	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	118 人
気候区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所・集合住宅・工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2014年11月20日
敷地面積	589 m ²	作成者	
建築面積	381 m ²	確認日	2014年11月20日
延床面積	3,103 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.3 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0

音環境	3.1
温熱環境	3.2
光・視環境	2.8
空気質環境	3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

機能性	3.1
耐用性	3.0
対応性	3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1

建物外皮の	4.8
自然エネ	3.0
設備システ	4.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.0

地球温暖化	3.5
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。●高層の建築物が立ち並ぶ一角で建物をセットバックし圧迫感をなくした。入居者に快適な空間を提供するため、断熱性の高い住戸空間及び周辺設備収納等を充実させた。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。●省エネ等級4の断熱性能 ●遮熱Low-Eを使用 ●化学汚染物質は性能評価基準に適合させる</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。●劣化、耐震、耐火、警報、維持管理、高齢者配慮は、性能評価基準に適合させる ●定期的な点検補修・追跡調査出来る維持管理体制</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。●省エネ等級4の断熱性能 ●低炭素建築物認定基準以下の一次消費エネルギー</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。●有害物質の含まない建材の使用</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。●ライフサイクルCO₂排出率が一般的な建物と同様 ●建物利用者の自転車置場を適切に確保している ●屋上緑化等の採用</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される